

熱性けいれん（ひきつけ）

4～5歳くらいまでは発熱時にけいれんをおこすことがあります。けいれんをおこしているお子さんをみると動揺し、何をしてもよいのかわからなくなると思いますが、**たいていは5分以内に止まります**。まずは保護者の方が落ち着いて対処することが大切です。

ひきつけたときの注意点

刺激せずに、そっとしておく

- 1) まず仰向けに寝かせ、衣類をゆるめる（揺すったり、大声で呼んだりしない）
- 2) 口の中に指や箸、スプーンをさしこまない（窒息させたり、口の中を傷つけたりします）
- 3) 吐きそうな時や吐いている時は顔を横にむける（からだごと横にむけてもよい）
- 4) 落ち着いてひきつけの様子を観察する
 - ・腕、足が、突っ張っている、ピクンピクンしているか？
 - ・眼が上、横をむいている？
 - ・何分くらい続いたか？
- 5) ひきつけが止まったら（手、足の突っ張りやピクピクが止まり、顔色や唇の色がよくなる）、体温を測り、安静にして、意識がもどる（泣き出す）ことを確認する

ただし、つぎのような場合はすぐに医療機関を受診してください

- ◆ 5分たってもけいれんが止まらない
- ◆ 24時間以内に再びけいれんを繰り返したとき
- ◆ けいれんがとまっても意識障害が続くとき

今後、発熱時に、抗けいれん剤（ダイアップ坐剤など）を与えて、ひきつけの予防処置を行なう必要のある方

- 1) けいれん発作が15分以上続いた
- 2) a～eのうち2つ以上に該当したけいれん発作を2回以上経験した
 - a. 部分発作または24時間以内に反復
 - b. 熱性けいれん出現前から神経学的異常、発達遅滞がある
 - c. 1歳未満
 - d. 発熱後1時間未満でのけいれん
 - e. 38℃未満でのけいれん

（予防期間：最終発作から1～2年間、もしくは4～5歳まで）